

社会科学習指導案

日 時 平成24年11月9日(金) 公開授業 I
生 徒 2年2組(男子17名 女子17名 計34名)
授業者 金子愛妃

1 単元名 第2編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 4節 中部地方

2 単元について

(1) 単元について

本単元は、中学校学習指導要領(平成20年)地理的分野の内容「(2)日本の様々な地域」の中項目、「ウ 日本の諸地域」を単元化したものである。この中項目は、日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、七つの考察の仕方の中から一つを選択し、地域的特色をとらえさせることがねらいとなっている。

地域的特色をとらえさせることについて、中学校学習指導要領解説・社会編(平成20年)では、地域的特色は、様々な事象が結び付き、影響を及ぼし合って成り立っていることに着目して、地域的特色を中核となる地理的事象とその他の事象との関連からとらえ、その成り立ちを考察することが大切であると述べられている。また、生徒が、地理的事象を見いだしてその特色を調べたり、事象間の関連を考察したりして、地域的特色を追究する学習活動が求められている。

本単元では、中部地方を取り上げ、学習指導要領に示された七つの考察の仕方うち、「産業を中核とした考察」を取り上げ、中部地方の各地域の産業の立地や動向などについての追究と、それぞれの関連性などを通して、中部地方の地域的特色を理解させたい。

(2) 生徒について

本学級は、落ち着いて社会科の学習に取り組む生徒が多い。地理的分野への興味・関心を持つ生徒も多いが、その多くが、地理的事象や用語の暗記にとどまっている。今年度の岩手県中学校学習定着度状況調査の結果をみると、複数の資料や事象を関連付けて考察することが十分にできていない。また、授業や定期テストの状況から、資料を読み取り、その内容をもとに自分なりの考えを構築し、自分の言葉で説明することを苦手としている。

そのため、本単元では、中核となる地理的事象と、既習事項や自分たちで調べた事を関連付けて考察させ、その関係性を、資料の読み取りや、既習内容をつかって自分の言葉で説明する学習が必要である。

(3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、中部地方の特色ある活発な産業という事象を中核として、それを、気候や地形などの自然的条件や、立地、交通、歴史的背景などの社会的条件と関連させながら、地域的特色を追究させたい。追究の場面では、考察を深めるために複数の資料を読み取り、考察した内容を自分の言葉で記述させたい。わかったことの根拠を示して発表するなど、言語活動や表現力の充実を図りたい。

その際、努力を要する生徒が学習活動に主体的に取り組むために、個別に声をかけ、個人の活動を支援したい。また、ペア活動によって、生徒同士が学び合い、表現を交流し、学びが深まることで、それぞれが自分なりの言葉で学習課題に対するまとめを書くことができるように指導したい。

3 単元の目標

- (1) 中部地方の地域的特色について、東海、中央高地、北陸の各地域の違いを、各地域の自然的条件と社会的条件の両面から考察してとらえさせる。
- (2) 中部地方の産業が地域に果たす役割やその動向が、交通網の整備や外国との関係などによって変化していることを理解させる。

4 単元の評価規準

【観点1】 社会的事象への 関心・意欲・態度	【観点2】 社会的な 思考・判断・表現	【観点3】 資料活用の技能	【観点4】 社会的事象について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の自然環境、人口、産業などの特色について概観する中で、特に三つの地域の特色ある産業に関心をもち、設定した追究テーマを基に地域的特色を意欲的に追究しようとしている。 ・地域の産業を、自然環境や社会的条件の変化、外国とのつながりなどと関連させて、意欲的に追究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・中部地方の産業の地域的な違いについて、地形や気候などの自然的条件と交通網や外国との関係などの社会的条件との両面から考察して、各地域の特色をとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の地域的特色に関する各種の地図や統計、写真などの資料を収集している。 ・収集した資料から、中部地方の地域的特色について、有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり、図表にまとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方について、自然環境や人口、産業などの特色を大まかにとらえている。 ・中部地方について、産業を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身につけている。

5 指導計画 【全5時間】

- (1) 中部地方の生活の舞台・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) 中部地方の人々の営み・・・・・・・・・・ 1時間
- (3) 工業の発展と地域の変化・・・・・・・・・・ 本時
- (4) 自然環境を生かした各地の農業・・・・・・・・ 1時間
- (5) 世界と結びつく中部地方・・・・・・・・・・ 1時間

6 本時について

(1) 目標

東海地方の工業の特色を、資料を基に様々な条件と関連付けて多面的に考察し、その発展の理由を説明することができる。

(2) 本時の指導構想

本時は、本単元の中核となる事象である中部地方の産業のうち工業を取り上げ、特にも東海地方の中京工業地帯の工業の特色について考察させる。課題追究の場面では、なぜこの地域でこのような工業が発達したのかについて、複数の資料から多面的、多角的に読みとらせたい。その際、資料から読み取ったことを、ノートに書く、ペアで確認する、発表するなど、必要な言語活動をしっかり取り入れたい。そして終末では、資料の考察からキーワードを導き、それをを用いて中京工業地帯の発展の理由を、自分の言葉で書くことができるよう指導したい。

(3) 本時の評価規準

評価規準	概ね満足できると判断できる状況【B】	十分満足できると判断できる状況【A】	評価の方法
【観点2】 中京工業地帯の発展の理由について、資料をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を、自分の言葉で適切に表現している。	中京工業地帯の発展の理由について、3つのキーワードを用いて、自分の言葉で書いている。	<ul style="list-style-type: none">・ かつての繊維産業の発展が自動車産業の発展に結びついたことにふれている。・ 既習事項である、近畿地方と関東地方の間にあり、大消費地に近い、人口が多いことにふれている。・ 既習事項である、中部国際空港や東海道新幹線などにふれている。	<ul style="list-style-type: none">・ 作業の観察・ 発表の内容・ ノートの記述

努力を要する生徒【C】への支援の手立て

【社会的な思考・判断・表現】

- ・ 個人の活動の際は、机間巡視をしながら個別に声をかけ、生徒の言葉を引き出して書くことにつなげる。
- ・ 考えたことや書いたことを挙手して発表できない生徒も、学習活動に主体的に参加できるように、ペアでの確認を取り入れる。
- ・ まとめを書く際、出だしと終末を指定し、板書したキーワードを用いることで、全員が文章で書けるようにする。

(4) 展開

過程	学習内容と活動	指導上の留意点 (※ 評価)	備考
導入 5分	1 課題把握 ・ 前時までの復習として、中京工業地帯の概要について確認する。 2 学習課題の確認 中京工業地帯が、日本最大の工業地帯に発展したのはなぜだろう。	・ 既習事項の確認	・ 資料提示 「中京工業地帯の写真」 「おもな工業地帯の工業出荷額のグラフ」
展開 35分	3 予想する ・ 前時までの既習事項と、知識をもとに予想する。 4 予想を発表する 5 考察の視点を確認する ・ 生徒の予想から、調べる視点を明らかにする。 6 資料から考察する (1) 教科書の本文や資料を読み取る。 ・ 視点について、わかったことをノートに書く。 (2) 考察を深める ・ わかったことを、さらに多面的、多角的に考察する資料を提示し、資料からわかったことを書く。 (3) 考察したことをペアで確認する。 7 考察したことを発表する ・ 生徒の発表の内容から、キーワードを見つける。	・ 予想の理由、根拠を書かせる。 ・ 理由や根拠を示しながら説明させる。 ・ 生徒の予想を生かした視点を導く。 ・ 視点:「自動車」・「立地」・「交通」 ・ 3つの視点について、教科書の本文や資料から、概要をつかませる。 ・ 中京工業地帯の発展にとって、輸出品としての自動車生産が大きな影響をもっていることをつかませる。 ・ 中京工業地帯の地域が、歴史的にも交通の要地であったことをつかませる。 ・ 臨海部であることの利点をつかませる。 ※ 観点2	・ 資料提示 「交通網の発達」 「名古屋港の輸出品目と輸出先」 「愛知県の自動車工業」 「日本の輸出品」
終末 10分	8 本時のまとめをする (個人) ・ 学習課題に対するまとめを、考察の際に確認したキーワードを用いて、文章で書く。 9 授業を振りかえる	・ まとめ文章は、出だしと終末を指定する。 ※ 観点2	